

**iPhono の活用(10)**  
**—iPhono の L/R 独立 2 台使用(4)—**

1. はじめに

iPhono 導入記(7)では、iPhono の出力を DA-3000 に入力し、リアルタイムに DSD 変換して録音しました。今回、iPhono の L/R 独立 2 台使用が実現したことからアナログ盤の DSD 録音を再度試みます。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/12/a139bcb344784db976522de004d9053.pdf>

2. アナログの DSD 変換録音と再生の方法

次のルートで iPhono2 台からの出力を DA-3000 に入力し、リアルタイムに 5.6MHzDSF のフォーマットに変換して録音します。iPhono2 台の設置条件は前報(8)の通りオーディオ機器用防振 BOX に設置しています。さらに前報(8)以降、アクションパッドを iPhono2 台の下に敷いています。即ち、iPhono 導入記(7)の録音以降、iPhono の L/R 独立 2 台使用、オーディオ機器用防振 BOX への設置、ならびにアクションパッド使用の効果が加わっています。

**iPhono×2→ DA-3000(44.1KHz)**

ここで DA-3000 には GPS-777 からクロック入力を行います。

カートリッジは iPhono 導入記(7)と同様、EMT XSD-15 を使用し、負荷インピーダンスの調整や盤に対するイコライザーカーブの選択は iPhono 導入記(5)までの結果から設定します。使用する盤はこれまでに使用したものから選抜し、これにいくつか追加して DSD のフォーマットで録音します。追加した盤は録音前にその都度イコライザーカーブの選定を行います。

試聴ルートは下記のとおりとします。再生ソフトは HQPlayer Desktop 3 ASIO を使用しています。

**PC→micro iDSD→DA-3000 (44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD  
(DA-3000 よりクロック供給)**

ここで、DA-3000 には ABS-7777 からクロックを供給します。PC と micro iDSD には USB リベラメンテ 1.3m で接続しています。

録音した音源は外付け HDD に収納しており、USB リベラメンテ 1.3m で接続しています。

**Buffalo 製 HD-LSU2D→PC**

### 3. アナログのリアルタイム DSD 変換録音の試聴結果

iPhono 導入記(7)で録音した DSD 音源やその前にしなの音蔵のプリのフォノイコ部を使用して録音した DSD 音源と比べてみましたが、アナログ再生が iPhono の L/R 独立 2 台使用、オーディオ機器用防振 BOX への設置、ならびにアクションパッド使用の効果等でクオリティアップしていることを受け、以前の録音に比べて一聴してすぐに分かるくらいの変化が認められました。即ち、前報(8)でのアナログ再生時の音圧が上がったように迫力が増し、セパレーションや奥行き感が増し、楽器の質感の表現が豊かになったことが DSD 録音でも再現されています。特に音が柔らかくしなやかになっていることが分かります。

さらに、元のアナログと比較しますと、鮮度が若干低下するのはやむをえませんが、今までより、その差が縮まっています。これは DSD 録音したものの再生系でアクションパッドの使用やその他の防振対策の効果が効いているものと思われます。

### 4. まとめ

iPhono の L/R 独立 2 台使用、オーディオ機器用防振 BOX への設置、ならびにアクションパッド使用の効果が加わったことが DSD 録音に記録され、クオリティの高い DSD 音源が得られました。

以上